

平成 30 年度生産性・品質向上のための IT の活用を図る企業の好事例発表及び
意見交換について

(生産性・品質向上のための IT の活用セミナー)

1. 日 時 平成 30 年 10 月 19 日 (金) 14:00~16:30
2. 会 場 札幌すみれホテル 3階 ヴィオレ
3. 基調講演 北海道 IT コーディネーター協議会 会長 田坂 和大
講演テーマ 未来を創る！
「IT 技術 (IoT、AI、ビッグデータ等) による第 4 次産業革命」
～IT 技術による“ものづくり”の楽しさと豊かな社会生活～
4. 参加者
 - (1) 好事例発表
 - ① 『受託加工現場での IT 活用』
シンセメック株式会社 取締役社長 布川 丈嗣
 - ② 『活用事例で見る、IoT/AI のビジネス利用』
エコモット株式会社 経営企画部 マーケティンググループ マネージャー 國塚 篤郎
 - ③ 『クラウドの活用で会社が見える！変わる！儲かる！』
日美装建株式会社 IT 事業部 室長 長谷川 慎
 - ④ 『課題を解決する IT 事例 (磯船 GPS 導入と LPWA の今後の可能性)』
株式会社ハイテックシステム 営業部 マーケティング担当部長 瀧川 憲
 - (2) 意見交換企業
パネラー
シンセメック株式会社 取締役社長 布川 丈嗣
エコモット株式会社 経営企画部 マーケティンググループ マネージャー 國塚 篤郎
日美装建株式会社 IT 事業部 室長 長谷川 慎
株式会社ハイテックシステム 営業部 マーケティング担当部長 瀧川 憲
 - (3) 全体総括
コメンテーター
北海道 IT コーディネーター協議会 会長 田坂 和大

聴講者 29 社 40 名

5. 基調講演

北海道 IT コーディネータ協議会 会長 田坂 和大

講演テーマ 未来を創る！

「IT 技術（IoT、AI、ビッグデータ等）による第4次産業革命」
～IT 技術による“ものづくり”の楽しさと豊かな社会生活～

講演要旨

①IT 業界の将来と IT 人材について

- ・ IT 業界では人材不足が続いており、2015 年の時点で約 17 万人の IT 人材が不足。将来的には更に深刻化し、2030 年ごろには約 59 万人にのぼると予想される。
- ・ 企業は売上や収益に結びつけられる人材投資ばかりに力を入れがちで、情報システム部門での改革、人材育成への投資はまだまだ乏しい状況。
- ・ 先端 IT 人材に関する課題は、「十分な知識を持った人材の不足」のほか、「製品やサービスを具体化できる人材の不足」など。

②将来起こりうる IT 技術と環境

- ・ 最近の AI の機能は 5 つ（画像認識、音声認識、自然言語処理、ゲーム、生成創作）あり、今後もっと精度を上げ進化するとされる。
- ・ AI を活用した企業の事例として伊勢市の老舗食堂 ちびす大食堂では、気象庁の天候のデータ、スマレジのデータ、様々な飲食に関する情報をビッグデータに呼び込ませ、それを元に AI に来客数、売り上げを予測させるシステムを作成。その結果、従業員を増やさずに売上を 4 倍、利益を 10 倍増やすことに成功。今後この事例のように、ビッグデータを解析し、需要を予測する活用事例は増える可能性がある。

③先端技術による“ものづくり”で豊かな生活

- ・ AI や IoT などの先端技術の本来の目的は人々の生活を便利で豊かにすること、効率化を図り、少ない人数で生産性を高めることである。
- ・ 将来的にデータ利活用型スマートシティ構想が進む。AI の発達、オープンデータ、ビッグデータを集約することにより、都市の生活がより便利で快適になっていく。
- ・ スマートシティ構想が進むと、個人個人の好みに合わせたオーダーメイド型の商品開発、サービス提供が実用化される都市になる。
- ・ 高齢者のインターネット、スマートフォン普及率が上がり、高齢者層を活用したものづくりが進む。

④今後期待される IT 人材

- ・ AI、IoT、ビッグデータ等の先端 IT 技術、情報セキュリティ等の重要性が増大することにより、これらの分野を担う IT 人材のニーズが大きく拡大する。
- ・ 今後期待される人材というのは最先端的な IT の技術を司る人材、セキュリティの人材、ここが今後大きく求められる時代に向かっていくと思う。

6. IT を活用し生産性・品質向上等に取り組む企業の好事例発表

好事例発表①『受託加工現場での IT 活用』

シンセメック株式会社 取締役社長 布川 文嗣

弊社の精密部品加工部門はオーダーメイド品が多くオーダー数量は10個以下が全体の半数を占めている。

また、加工時間も30分/個～数十時間/個とバラバラである。

その為に全体量は把握出来ても詳細については作業担当者を確認しなければ分からなかった。

また、工程間の受け渡し予定も前工程の遅れが後工程に伝わらず混乱する事も多々あった。

そこで、作業担当者の予定を一括管理し大型モニターで表示。誰でも状況が確認できるようにした。

これにより各作業者の予定と機械の空き状況が把握でき、より効率的な生産計画を立てる事が出来る様になった。

また、個々の遅れや前倒しなどの状況も工場全体で把握できる為、混乱する事も無くなった。



好事例発表②『活用事例で見る、IoT/AI のビジネス利用』

エコモット株式会社 経営企画部 マーケティンググループ マネージャー 國塚 篤郎

当社は創業から11年にわたりIoT関連事業を展開してきた。

最近ではIoT領域での「見える化」や「制御」にとどまらず、AIの活用によってより具体的なシーンでセンサーデータを活用するシーンが増えてきている。

実際にサービス提供者としてIoTサービスの事業展開を行なう中で、どのようにIoTやAIのリソースを活用しているのか。事例を交えてご紹介させていただくとともに、世間の抱くIoTのイメージと実際のビジネスのギャップについても伝える。



好事例発表③『クラウドの活用で会社が見える！変わる！儲かる！』
日美装建株式会社 IT事業部 室長 長谷川 慎

Salesforce（セールスフォース）という世界 No.1CRM を 2015 年 2 月に導入。
清掃業である弊社はもともと清掃現場の情報を個々の PC に保存しており、その内容が会社全体として共有されていなかった。

Salesforce を導入したことで清掃現場の情報の見える化、原価管理、請求管理、入金管理なども可能になり、なくてはならないツールとなっている。

また社員一人一人が分析をし、戦略を立て行動に結びつけたことが Salesforce の会社にもたらした変化である。

2018 年 Salesforce のパートナーになり現在、企業様にあった Salesforce の構築をさせていただいている。

たった 3 年で清掃業の弊社が Salesforce のお仕事をいただけていることに非常にビジネスチャンスを感じている。



好事例発表④『課題を解決する IT 事例(磯船 GPS 導入と LPWA の今後の可能性)』

株式会社ハイテックシステム 営業部 マーケティング担当部長 瀧川 憲

第一テーマでは、奥尻町に納入した「うみのパトロール」を紹介する。磯船に GPS を搭載し限界集落化の防止には、若者に漁業移住してもらえる環境づくりとして、安全（海難事故対策）と安心（収入保証）をこの事業で目指している。

第二テーマでは、LPWA（ローパワーワイドエリア）通信の今後の可能性について、当社の取組みを紹介する。LPWA への期待は、安価な通信コストである。携帯通信 SIM カードなしで、センサー端末と中継機が数キロメートルの範囲で繋がる。当社開発のエリアゲートウェイシステムは中継機（エリアゲートウェイ）とセンサー端末（エリアデバイス）をセットで提供するので、ユーザが必要とする場所で半径数キロメートルの専用通信網を構築することができる。特に、センサー端末がバッテリー駆動のため、設置が容易、携帯通信エリア以外の工事現場や震災復興事業で水位・土砂災害の監視など防災面での活用が期待されている。



7. 意見交換（パネルディスカッション）では次のような意見が聞かれました

シンセメック(株)

Q. 自社で開発した Access で作ったアプリケーションは、自社の社員だけで作ったのか？

A. 今はたいそうなシステムになっているが、当初は単純に納品書が手書きだった。納品したのに伝票を書き忘れて、請求漏れを起こすということもあり、データベースとして Access で作った。最初はお客さんから注文を受けて金額が入っているくらいのシステムだったが、そこから少しずついろんなデータを増やしていくということを 20 年間やってきた中で出来あがった。全部自社の社員が作成した。

エコモット(株)

Q. 最終的に監視カメラのところから IoT をデジタル化したきっかけは何か？

A. 当社代表が札幌に住んでいて、灯油代が高いという巷の声が耳に入っていて、それが課題として認識にあった。彼自身はもともと携帯の着信メロディー関連の事業をしており、職業がらモバイルテクノロジーに対して一定の理解があった。課題と発掘前のベースのテクノロジーのようなものがある、その組み合わせがおそらく発想の原点になったと思う。時期的にもちょうど良かったのもあると思う。

日美装建(株)

Q. セールスフォースを導入するきっかけと、最初社長が現場で一人で入力作業をしていて、その現場の人たちの抵抗はなかったのか。

A. 弊社の代表は丘珠にある北海道共伸特機株式会社のプレゼンを見て感銘を受け、すぐに導入に至った。そういった企業が近くにいたおかげで、活用が進んだのではないと思う。現場の人たちの抵抗と言うのは正直あった。現場には IT 用語の分からない人が多かったので、IT 用語を使わずに説明することに尽力した。

(株)ハイテックシステム

Q. 事例のなかで海のパトロールというのがあるが実際に導入されたところでどのような反響があるか。

A. 残念ながらやっと営業が導入の方向に向かっているというところ。農業は自分の土地を所有しているが、漁業はみんなの海という感覚。どこで何を捕ったかという情報は全部個人情報という形でクローズされている。この夏から奥尻町の方で積極的に導入されており、GPS のシステム使用料月額 700 円を、漁師に負担がかからないように 0 円にしようとする取組んでいる。先月中に 90 セットを設置したと聞いている。

8. 全体総括

【コメンテーター】

北海道 IT コーディネータ協議会 会長 田坂 和大 様

・今日はテーマの中で IoT と AI というのが多くの事例としてあった。IT 技術は日進月歩が続いており、昔も AI の発想というのはあったが、なかなか使いものにならず、現代のような情報もなく、当然性能も良くなかった。それが最近になり一気に大きく変わる転機に入り、ようやく実現できる環境に来ている。

・今回意見交換でパネラーの方に発表いただいたが、これはほんの一部だと私は思っている。北海道には優れた技術を持った企業、優れたサービスを持つ企業がたくさん

あるため、これから国内あるいは国外に発信し、最終的には北海道の経済に貢献することが大切だと改めて感じた。

- ・企業のアライアンス、大学の研究所、企業との連携も必要である。一社で出来ることは当然限られているため、それぞれが持つ優れた技術を合わせなければ、世の中に示せるような技術には持っていけない。

- ・IT技術を担うのはあくまでも人だと思う。技術を使うのも人であり、作るのも人。人材不足の世の中において、これから我々自体がAIを豊かに使っていくというのも大事である。

- ・パネラーの方の災害に対する思いや、将来に対しての思いを聞き、企業の発展と地域の発展のためには、我々の技術だけでなく人を成長させることが大切であると感じた。企業のアライアンス、大学の研究所、企業との連携も必要である。一社が出来ることは当然限られているため、それぞれが持つ優れた技術を合わせなければ、世の中に示せるような技術には持っていけない。

- ・来年以降もこのような機会を継続して設けることで、みなさまのビジネスのお役に立てればと願っている。

